



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	日本と中国の小学校における掃除の取り組みの実態と相違(fulltext)
Author(s)	大竹,美登利; 全,瑛
Citation	東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 67(2): 291-301
Issue Date	2016-02-29
URL	http://hdl.handle.net/2309/144697
Publisher	東京学芸大学学術情報委員会
Rights	

日本と中国の小学校における掃除の取り組みの実態と相違

大竹 美登利*¹・全 瑛*²

家庭科教育学分野

(2015年9月16日受理)

1. はじめに (調査の目的)

学校掃除の国際比較研究を行った沖原(1978)は、掃除への児童・生徒の関与の仕方を「清掃員型」「生徒型」「清掃員・生徒型」の3つに分類し、アジア仏教圏は「生徒型」に属していること、掃除は神道のみそぎやはらいの催事や仏道修行と深く関係していること、日本では寺子屋時代から掃除が子ども達の教育と深く結びついていること、国家基準が明確に示された1958年の学習指導要領にはすでに「整理・整頓し、環境を美しく清潔にする」と記されていることを明らかにしている。

現行の「小学校学習指導要領」(平成20年(2008年)3月)から、〔学級活動〕〔共通事項〕「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の中に、「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」として、掃除活動がはじめて明記された。その解説(平成20年(2008年)8月)で「日々の学級や学校の生活を維持するため、児童に清掃をはじめ当番活動に取り組ませている学校が多い」と記されているように、日本では、掃除が学校教育の中に深く浸透している。

横浜市は1970年代後半頃から児童生徒にトイレ掃除をさせていなかったが、2008年に特別支援学校を除く全市立学校で児童・生徒によるトイレ清掃を復活させることを教育委員会が決めた。1996年に岡山県で学校給食に起因するO157食中毒事件が発生したのを受けて、学校における排泄物の管理が嚴重になり、また2006年のノロウイルスの蔓延により、排泄物から子ども達を遠ざけて慎重に対応するマニュアルが浸

透していたこともあり、このトイレ掃除の問題は大きな議論を呼んだ。

学校トイレ研究会(2009)の2008年の調査によると、児童生徒のみがトイレ掃除を担当している学校が半数を超え(小学校53%、中学校53%)、児童生徒に加え先生や用務主事・清掃業者も行っている学校が4割強(小学校42%、中学校44%)、用務主事のみ(小学校3%、中学校1%)や清掃業者のみ(小学校2%、中学校2%)は数%にとどまっている。すなわち、賛否両論あるトイレ掃除においても、児童・生徒が掃除を担っており、学校掃除を児童が行うことは日本にとっては当然のことである学校文化として定着している。

学校掃除が日常の教育活動の一環として行われている日本の状況を受けて、筆者は掃除専門企業と共同し、教師による意識的な掃除指導が児童の知識・技術や段取り力の向上に資することを明らかにする研究を行ってきた(大竹他2010, 2011, 2012, 2014, 2015)。これらの研究の延長線上で、筆者らは学校掃除の指導の可能性が日本だけの特殊な事情によるものなのかに関心を向けるようになった。中国留学生との共同研究の機会を得て、中国と日本の小学校の学校掃除の取り組みの相違を明らかにする調査研究を行うこととした。

2. 調査内容

調査内容は、表1に示すように、主に3つの部分から構成されている。第一の部分は小学校の学校掃除の状況を、対象の大学生が小学生であった頃を想起する

*1 東京学芸大学 生活科学講座 家庭科教育学分野 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

*2 東京学芸大学大学院 平成26年度修了生

方法で把握した。ここでは、掃除の担い手、掃除の方法(学校掃除を行う頻度、学校掃除計画、学校の掃除場所)、掃除方法、先生の掃除指導と掃除の取り組みのサボり状況などを尋ねた。第二の部分は家の掃除を尋ねており、家の掃除頻度、家の掃除場所、親の掃除指導などから構成されている。第三の部分は掃除指導に肯定的かどうかの意識など、掃除指導に対する基本的な考え方を取り上げた。なお、最後に性、年齢などの基本属性を加えた。

表1 日中の小学校における掃除についての調査内容

小学校での掃除の取り組み状況	掃除の主たる担い手	1. 掃除を子供達が行っていたか 2. 小学校の掃除は誰が していか 3. 大掃除の回数
	掃除の方法	4. 掃除の分担方法 5. 掃除班の人数 6. 子供達の掃除場所 7. 一回の掃除時間
	掃除の道具	8. 掃除道具 9. 使用した洗剤の内容 10. 掃除道具などの用意 した人
	さぼりの状況とその指導	11. 先生の掃除指導の状況 12. 取り組みのまじめさ、 怠け 13. 怠けた人への罰
家庭での掃除の状況		14. 小学生の時、家で掃除 をしていたか。 15. 家での掃除分担場所 16. 親からの掃除の指導
掃除に関する考え方		17. 家や学校で子どもが 掃除を学ぶことにつ いて 18. あなたは掃除が好き ですか。
基本的属性		19. 性別 20. 年齢 21. 通っていた小学校の 場所

3. 調査方法および分析方法

対象者は調査の可能性から、日本と中国の大学生とした。

日本の大学生は、東京学芸大学在籍中の学生であり、家庭科教員に依頼し授業で調査票を配布回収して

貰った。中国の大学生は東京学芸大学だけでは十分な数を集められないことから、在日中国人留学生を対象に、スノーボーリング方式で、筆者の関係者から関係者に依頼し、回収した。

調査は無記名であり、調査依頼時に個人情報公開しないことを明記した。

調査時期は、日本の学生への調査は2014年7月から10月までの間で、中国の留学生への調査は2014年の3月から6月までの間で行った。

データはIBM SPSS Statistics 22を用い、 χ^2 による検定を中心に分析した。

4. 対象者の特徴

調査対象者の数ならびに性別は表2のとおりである。日本の学生は185人、中国の学生は130人である。性別では日本の学生は男性が29.7%、女性が70.3%、中国の留学生は、男性が33.1%、女性が66.9%で、両国とも女性が多いが、両国の性別の偏りは類似している。

表2 調査対象者の性別

		性別		合計
		男性	女性	
日本	人数	55	130	185
	割合	29.7%	70.3%	100.0%
中国	人数	43	87	130
	割合	33.1%	66.9%	100.0%

対象者の年齢は、日本人の学生は18～20歳が64.8%、20～25歳が35.1%、25～30歳は0%であり、中国人の学生は、18～20歳が10%、20～25歳が67.6%、25～30歳が22.3%と、中国人の学生は日本人より年齢層が高かった。これは、留学生の場合、高校卒業後に日本語の勉強をしてから日本の大学に入学することが多いことから、大学入学の年齢が日本人より高くなっているといえる。しかしその年齢は3歳ほどにとどまり、小学校時代の学校教育の取り組みに時代的な大きな相違はないと判断し、両国の小学校の実態を比較することが可能な対象者であると考えた。

5. 結果

- 5. 1 小学校での学校掃除の取り組み状況
 - 5. 1. 1 学校掃除の主たる担い手
 - 5. 1. 1. 1 児童が学校掃除を行う頻度

小学校では、学校の掃除を児童が行っているのか、行っているとしたらどのくらいの頻度で行っているのかについて尋ねた(図1)。

その結果、日本も中国も、児童による掃除を行わない小学校は皆無に近かった。掃除の回数は、中国では年数回が21%、毎日ではないが定期的には29%、毎日50%で、半数が毎日掃除を行っていたが、毎日行わない小学校も半数あることになる。一方、日本ではほとんどが毎日、掃除を行っていた。

日本の小学校では毎日掃除を行うことが定着しているが、中国は必ずしもそうっておらず、両国の取り組み方に相違があることが分かった。沖原(1978, p137)はソ連などの社会主義国では掃除に類する作業を労働教育の一環として行っているという特色があると述べているが、このように労働教育という科目の中で取り込まれる場合は、毎日ではなくその科目の指導にそって年何回か取り込まれていると推測できる。すなわち、中国では日本と同様に学校生活活動の一環として毎日取り込まれている場合と、労働教育の一環として年何回か取り込まれている場合が混在していると推測できる。

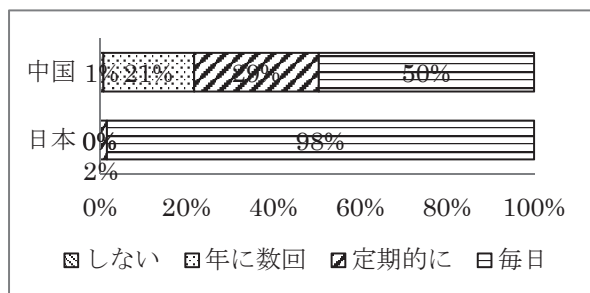


図1 児童が学校掃除を行う頻度

5. 1. 1. 2 児童が行う年間の大掃除の回数

毎日の掃除以外に定期的に行うのは大掃除であると捉え、大掃除を児童が担当している場合に(中国59人、日本25人)、その回数を尋ねた。その結果、中国では年「1, 2回」行っている小学校が22%、年に「3, 4回」行っている小学校が37%、年に「4回以上」が41%で、「4回以上」行っている学校が最も多かった。中国では毎日行っている小学校が少ないが、その代わりに大掃除のような特別な掃除の回数を多くすることで、毎日ではない掃除をカバーしているように思える。

日本の小学校では「1, 2回」の大掃除が24%、「3, 4回」が76%、「4回以上」は0%であった。すなわち日本では毎日の掃除に加えて学期ごとに定期的に行う大掃除を実施していると推測できる。毎日の掃除と

大掃除の回数に中国と日本の相違が大きく、小学校における学校掃除の目的の相違が回数に反映しているように思われた。

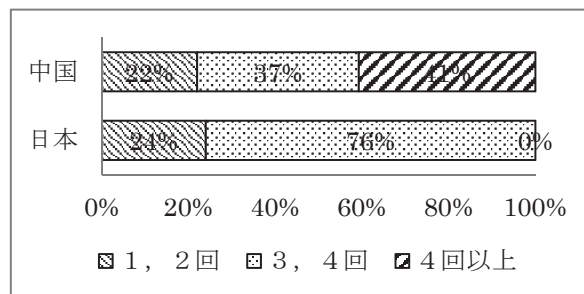


図2 児童が行う年間の大掃除の回数

5. 1. 1. 3 児童以外の掃除担当者

児童が掃除をしていない学校で(中国26人日本16人)、掃除を担当する人は誰かを尋ねた。学校で雇用している職員か、掃除会社への委託か、その両方(半々)の中から選択してもらった結果、中国では児童以外での掃除担当者は、「雇用職員」が31%、「掃除会社」が19%、「雇用職員と掃除会社の半々」が50%と、「掃除会社」へ委託している学校は約7割を占めていた。日本では「雇用職員」が94%と大半で、「半々」は9%で、「掃除会社」のみはなかった。日本ではどの学校にも、校内の様々な保守管理を行う用務主事があり、掃除もその仕事の1つに位置づけられている結果を反映したものと思われる。一方、中国では、これらの数値からみると、雇用職員はいるが学校の掃除を一手に引き受けているわけではなく、掃除会社への委託に依存した清掃管理であると推測できる。

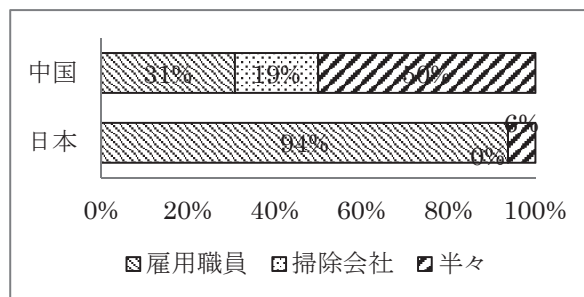


図3 児童以外の掃除担当者

5. 1. 2 学校掃除の方法

5. 1. 2. 1 掃除分担方法

日常の掃除活動や年数回の大掃除の掃除の分担方法について、「学校全員」で行う、「掃除場所を特定」して分担して行う、「クラス単位」で行うの中から選択してもらった結果、中国では「学校全員」が行うが19%、「掃除場所特定」が39%、「クラス単位」が

42%と、「クラス単位」が多く、日本では「学校全員」が行うが4%、「掃除場所特定」が92%、「クラス単位」が4%と、「掃除場所を特定」して行うのが大半であった。

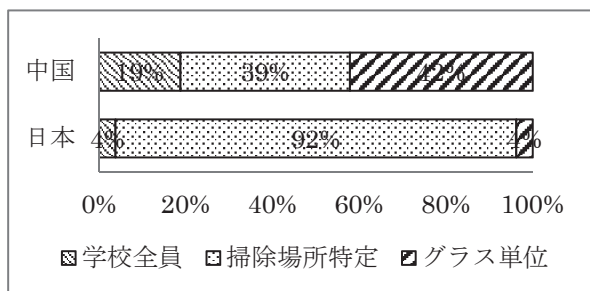


図4 大掃除の分担方法

これは先の掃除頻度で、中国は毎日ではなく大掃除や科目の中で行う掃除が中心で、日本では日常生活指導の一環として毎日行っていることの違いも反映していると思われる。すなわち中国ではクラス単位の学習活動の延長線上で掃除を行い、日本では教室や廊下、玄関、特別教室などをくまなく毎日清掃するために各担当部署を決めて生活活動の一環として行うという、取り組みの相違が現れたといえよう。

5. 1. 2. 2 掃除班の人数

掃除を行う班の人数を、「2-3人」、「4人以上」、「クラス全員」の3つの選択肢から選択してもらったところ、中国では「2-3人」が23%、「4人以上」が47%、「クラス全体」が30%と、「クラス全体」で行う場合が3割を占めていた。日本では「2-3人」が4%、「4人以上」が86%、「クラス全体」が10%と、「4人以上」の班で取り組んでいることが多かった。

これは掃除の分担方法と関連しているといえ、中国では労働教育などの授業の取り組みとしてクラスで掃除に取り組んでいることが多いといえる。一方日本では担当場所を決めて毎日掃除することから、4-5人など少数の班を構成して取り組んでいることが多いと

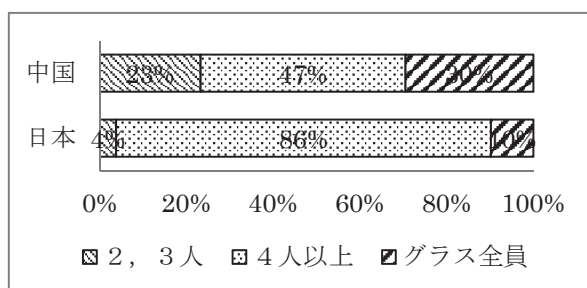


図5 日常の掃除における掃除班の人数

推測できる。

5. 1. 2. 3 児童が担当する掃除場所

次に児童が学校で掃除を担当する場所について尋ねた。

中国では多い順に「床」81.5%、「窓」74.6%、「机」70.0%、「廊下」61.5%、「トイレ」30%、「ベランダ」27.7%であり、日本では多い順に「床」99.5%、「廊下」95.1%、「机」80.4%、「トイレ」79.9%、「体育館」65.2%、「窓」64.7%、「ベランダ」39.1%であった。すなわち、学習活動の中心であり様々な自分たちの物も置いてある「自分たちの教室」の床や机、窓をまずは掃除しており、中国と日本に大きな相違はなかった。一方、「廊下」、「トイレ」、「体育館」は日本では児童が担当し、中国では担当しておらず、両国に相違があった。なお、児童が担当している比率は低いが、プールやその他も日本の方が中国より児童が掃除を担当している率が高かった。これらは学校の子供達全員が使用するいわば学校内の公的な場所である。中国ではそれは雇用職員や委託会社が担当し、日本では児童が担当するという取り組みの相違が表れた。沖原(1978)がトイレ掃除は日本特有の現象だと述べているように、日本では、掃除に衛生を保つという意味合い以上のものを期待していることもある。例えばトイレは「ご不浄」と呼ばれ、そこを祓い清める仏教の掃除思想の象徴になっている。また近年ではトイレ掃除を人間教育に深く結びつける取り組みもある(鍵山2007)。こうした掃除文化の相違が、中国と日本の児童の学校掃除の分担にも反映していると思われる。

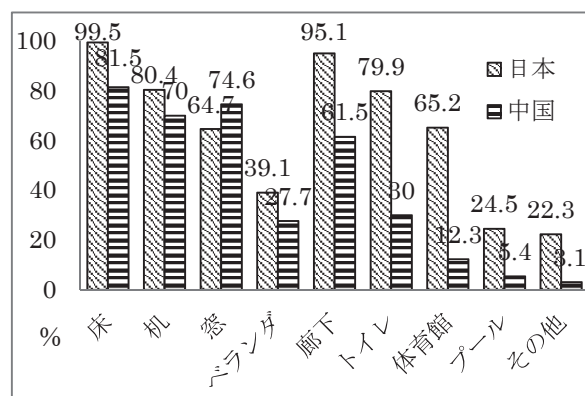


図6 児童の掃除分担場所

5. 1. 2. 4 1回の掃除時間

1回の掃除活動に割く時間を、「15-20分」程度、「1時間」位、「2時間以上」の3つから選択してもらった。その結果、中国では「15-20分」

が57%、「1時間」が31%、「2時間以上」が12%、日本では「15～20分」が98%、「1時間」が2%、「2時間以上」が0%と、中国も日本も「15～20分」が最も多かったが、中国では「1時間」、「2時間以上」も一定数おり、1回の掃除時間は中国の方が長い傾向にあった。

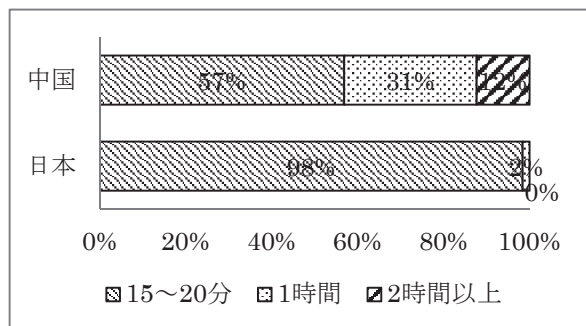


図7 1回の掃除の時間

すなわち、これまでの掃除回数や掃除場所、掃除班の人数などとあわせて考えると、日本では毎日掃除は行いが、その掃除時間は15分くらいと短く、始業前や昼休み、放課後などの学習活動に組み込まない時間帯に行われている活動であると推測できる。一方中国では1時間、2時間も多く、その場合には大掃除という学校全体の特別な取り組みとして長時間行ったり、または労働教育の一環として1時間の授業の中に組み込み、毎日ではないが比較的長い時間の取り組みが多いと推測できる。

5. 1. 3 学校掃除で使用する道具

5. 1. 3. 1 掃除の用具

学校掃除で使用する用具について、「箒」、「チリトリ」などの8つから選択してもらった結果、中国でも日本でも8割以上が使用していると回答したのは「箒」と「雑巾」であった。すなわち、学校掃除で使用されている用具と掃除の仕方の基本は、中国や日本においては箒での掃き掃除と雑巾での拭き掃除であるといえる。今日では家庭においては掃き掃除は電気掃除機、拭き掃除は化学雑巾が普及しているが、これら家庭の掃除と学校掃除で使用する用具は異なっていた。学校掃除においても、雇用職員や掃除会社が行う場合は電気掃除機などの機械が導入される可能性は高いが、多くの子ども達が一斉に掃除を行うために一人一人に同じ用具を準備し、人手はあるが技術力は様々であることが前提で取り組む掃除には、昔ながらの箒と雑巾が使用しやすい用具であることが確認できた。

なお、その次に多いのがチリトリであるが、中国と

日本の使用割合が大きく異なっていた。中国では外と内の履物を区別しないなど内と外の連続性が高く、したがってゴミを外に掃き出すという掃除行動を取りやすいのに対して、日本では内履きと外履きの区別意識が高く、内と外は区別してそれぞれの中でゴミを集め完結するという掃除行動が反映していると推測される。

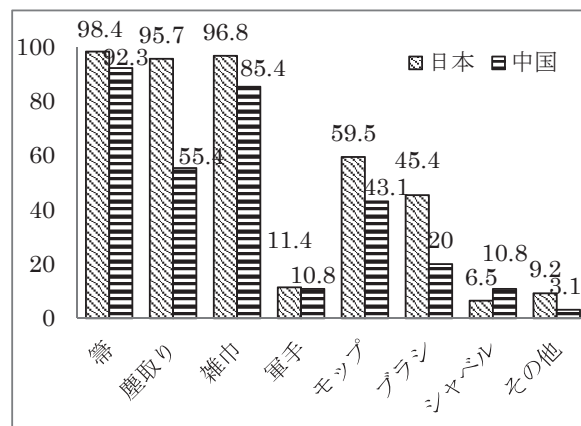


図8 学校掃除の時に使う道具

「モップ」や「ブラシ」は日本の使用が多く、これは「トイレ」や「体育館」、「プール」などの掃除をすることが高いことから、それらに利用される用具として、日本での使用割合が高くなったものと考えられる。一方「シャベル」は、使用割合の数値は低いですが、日本と比べると中国の割合が高い。中国では学校全体での大掃除的な取り組みが多く、その場合に校庭の庭土などの外回りの整備や雪かきなどの掃除も含まれる可能性が高く、そのことが「シャベル」の利用を高くしていると考えられる。

なお、洗剤利用についても尋ねたが、中国も日本も洗剤は4割強、漂白剤1割強使用しており、両国における相違はなかった。

5. 1. 3. 2 用具と洗剤の支度

上記の掃除用具や洗剤等は誰が用意するのか尋ねた。その結果、中国では「児童」が9%、「学校」が61%、「生徒と学校」が30%、日本では「児童」が2%、「学校」が66%、「児童と学校」が30%と、中国と日本の相違は少なく、多くは学校が準備し、一部は子どもと学校が準備していた。「箒」や「モップ」などの備品的な用具は学校が、「雑巾」などの消耗品的な用具は児童が準備するのではないかと推察できる。

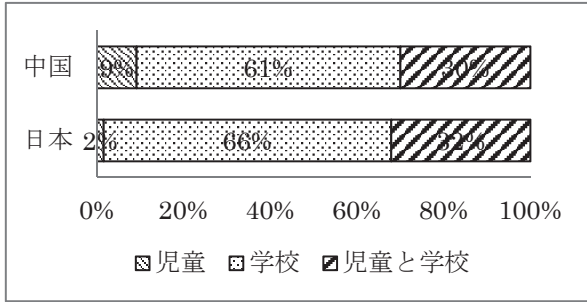


図9 用具や洗剤の準備を誰が行うか

5. 1. 4 さぼりの状況と教師の指導状況

5. 1. 4. 1 教師の関わり方

掃除活動は教科学習と相違し、教師と一緒にいて指導するとは限らない。そこで掃除活動の時に教師と一緒にいるかどうかを尋ねた。その結果、中国では、「いつも一緒」は25%、「時々一緒」は45%、「ほとんど一緒にはいない」は30%と、教師と一緒にいるのは1/4にとどまっていた。日本では「いつも一緒」は50%、「時々一緒」は45%、「ほとんど一緒にはいない」は5%と、教師が児童と一緒にいることが多く、いないのは一桁にとどまっていた。

中国は大掃除など学校全体で取り組む掃除と労働教育という教科学習の一つで取り組む傾向にあると推測され、教育活動の一環として教師が掃除指導をしていると考えるが、必ずしも子ども達と一緒に掃除はしておらず、したがって指示指導はするが、一緒に掃除しながら指導するという学校文化は無いようである。一方、日本では教科の学習活動ではないが、学校生活全般にわたって、児童が学校にいる間は児童と一緒に活動しながら児童の行動を把握し、きめ細かく指導する傾向にあり、それがこの結果に反映したのではないかと推測される。

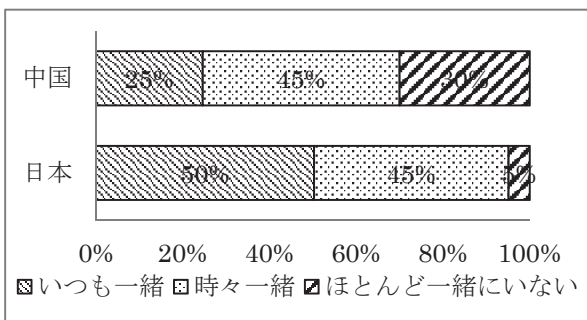


図10 教師の掃除指導の状況

5. 1. 4. 2 掃除をサボる児童の有無とその指導の状況

掃除は汚れた状況を元に戻す修復行為であり、はじめの状態以上にきれいにはならないし、きれいにしてもまた汚れる非創造的な活動で、やる意欲が湧きにく

い。こうした性格から、サボる子ども達も出てくる課題が掃除活動にはある。そこで掃除指導の状況を把握するため、小学校の時の掃除活動をサボっている人はいたか、あるいは自分もサボったかどうかを尋ねた。

中国ではサボる人が「いない」と回答した人は29%、「何人か」はいたと回答した人は44%、「多くの人が」サボっていたと回答した人が13%、「自分も」サボったと回答した人が14%、日本ではサボる人が「いない」が11%、「何人か」はいたが80%、「多くの人が」サボっていたが2%、「自分も」サボったが7%であった。すなわち、日本では「何人か」がサボっていると回答した人が大半であったが、中国ではサボっている人が「いない」と、「多くの人が」サボっているとの回答が日本より多く、中国ではまじめに取り組んでいる人とサボる人との両極に分かれていた。

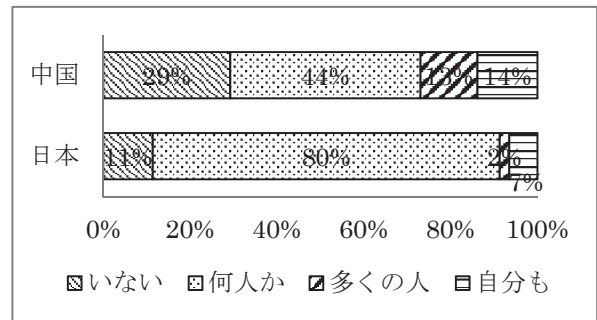


図11 掃除をさぼる児童の有無

そこで、サボった児童への指導としてどんな罰を与えられていたかについて5択で尋ねた。中国では「罰はない」が51%と最も多く、次に「しかられる」が28%、続いて「掃除をやらされる」で16%、「体罰」が5%、「罰金」も1%いた。日本では「しかられる」が60%と最も多く、続いて「罰はない」が36%、次に「掃除をやらされる」が4%で、「体罰」や「罰金」は0%であった。すなわち、中国では「罰」は無いことが多いが、逆に「体罰」や「罰金」といった厳しい罰も存在することが分かった。

先の問の教師の掃除指導で、中国では掃除活動の時に教師が児童と一緒にいない傾向にあり、しかるなどの指導をしない(できない)場合が多いと思われる。一方、サボりが発覚すると、体罰や罰金など厳しい指導につながってしまうのではないかと考える。日本では学校現場で体罰は嚴重に取り締まわれていることから、体罰や罰金などの罰はないが、中国ではこうした厳しい罰が可能で、そのことを背景に、中国では「サボる人はいない」という状況が生まれてきているのではないかと考えられた。

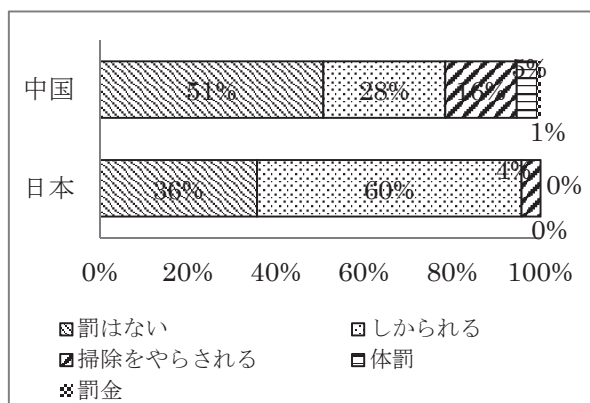


図12 サボる児童への教師の指導状況

5. 2 家庭での掃除状況

5. 2. 1 家庭における掃除の実施度

小学生がどの程度家庭の掃除に関わっているのかを尋ねた。5択で選択してもらった結果、中国では「場所を決めて定期的に」が24%、「場所は決めていないが定期的に」が15%、「思いついた時」にが29%、「大掃除の時」が15%、「全くしていない」が18%と、「場所を決めて定期的に」が最も多い。一方、「全くやっていない」人も多く、サボりと同様に両極に分かれていた。

日本は「定期的」に、あるいは「思いついた時」や「大掃除の時」も含めて、小学生が家庭の掃除に何らかの形で関わっていたのが中国より多く、日本では家庭のしつけの延長線上で掃除活動へ参加する傾向がある。一方中国では、一人っ子政策で日本以上に子どもを大事に育てており、家庭では受験勉強などの取り組みを重視し、家庭の仕事を分担することは余り取り組まれていないように思えた。特に日本に留学してくる学生の家庭環境は、そうした傾向が一層強いと考えられる。

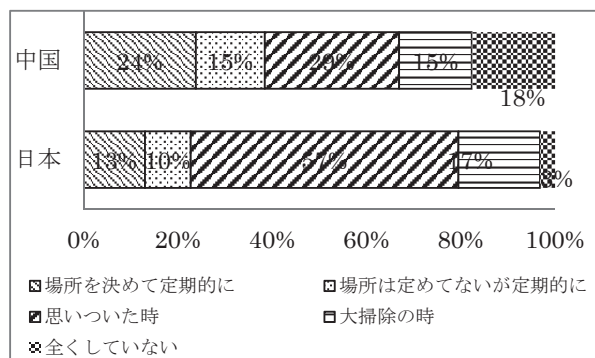


図13 家庭での児童の掃除実施状況

5. 2. 2 家庭での児童の掃除場所

家庭の掃除を小学生が行う場合、主にどの場所を掃

除するのかについて尋ねた。中国も日本も「自分の部屋」が最も多く、中国では77.7%、日本では91.4%が「自分の部屋」の掃除を担当していた。中国では次に「居間・客室」、「台所」が多く、日本では「浴室・洗面所」が多かった。

特に中国では台所を、日本では浴室・洗面所を担当していることが特徴となっている。中国の料理は油料理が多く、台所は落ちにくい油污れで掃除に手間暇がかかることから、子ども達も手伝ってほしい親の期待が大きく、こうした傾向が現れるのではないかと考える。また、日本には毎日湯船につかる風呂文化が定着し、風呂掃除への親の期待は大きく、一方、中国の家庭はシャワーのみしがなく、公共の風呂が発達しており、子どもが家庭で風呂掃除を手伝う機会も少なくなる。こうした生活環境も家庭での子どもの掃除への参加状況に影響を与えていることが分かった。

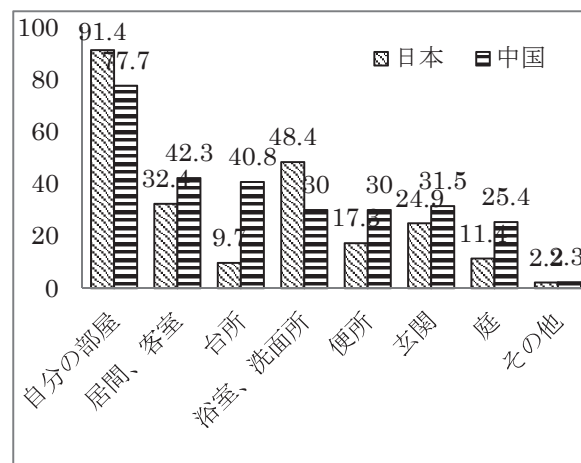


図14 家庭での児童の掃除場所

5. 2. 3 親の掃除指導

家の掃除についての親の指導への関わり方について尋ねた。

中国では「指導せず一緒に掃除」が17%、「指導しながら一緒に掃除」が31%、「指導するが一緒に掃除はしない」が14%、「何も言われたい」が26%、「子どもには掃除をさせない」が12%、日本では「指導せず一緒に掃除」が22%、「指導しながら一緒に掃除」が42%、「指導するが一緒に掃除はしない」が14%、「何も言われたい」が22%、「子どもには掃除をさせない」が1%で、両国とも「指導しながら一緒に掃除」が最も多かった。しかし、指導するにしてもしないにしても親が子どもと一緒に掃除するのは中国で48%、日本では64%と、日本の親の方が子どもと活動する傾向にあった。一方、「何も言われたい」「子どもに掃除をさせない」など、子どもの掃除への関与を積極的

に進めていない家庭は中国が38%、日本が28%と、中国が多いという特徴があった。

先の学校での掃除指導に教師が児童と一緒にしない傾向と同様に、家庭でも親が子どもに付き添って掃除をすることが少なく、掃除活動に積極的に関わらない傾向は類似していた。

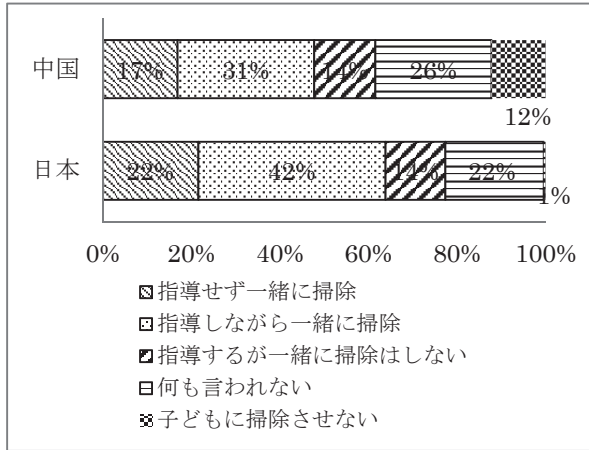


図15 親の掃除指導

5. 3 掃除指導に対する考え方

5. 3. 1 掃除の必要性

以上の実態を反映して、それぞれの掃除教育に対する意識が形成されると考える。そこで、両国の学生の掃除教育への意識について尋ねた。

掃除について、家庭や学校で「教えた方が良い」と考える学生は、中国では52%、日本では88%と、日本の学生の方が掃除教育を重要だと考えている者が多かった。一方、「自然にできるので教える必要は無い」と回答した学生は、中国は37%、日本は11%で、中国の方が教える必要性を感じていなかった。さらに「掃除をする必要が無い」と回答した学生が中国では12%おり、日本は皆無であった。中国では近年階層分化が進み、富裕層の家庭では掃除をホームヘルパーなどに委託し、掃除を忌避する人もおり、それがこう

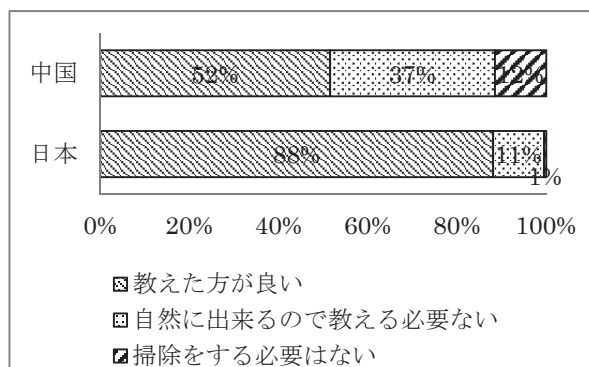


図16 掃除教育の必要性

した意識に現れたのではないかと推測できる。

5. 3. 2 掃除の好き嫌い

最後に掃除の好き嫌いについて尋ねた。両者とも大きな相違はないが、中国の方が「好き」という回答が日本より少なく、逆に「嫌い」が日本より多かった。これは前問の掃除教育の必要性に対する意識とも関連し、掃除はいやなもの、やりたくないという意識が中国には大きいのではないと思われる。

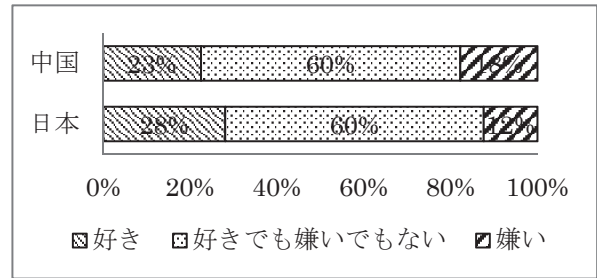


図17 掃除の好き嫌い

6. まとめ

筆者は学校での掃除活動を生徒の共同性や段取り力などの育成に生かしたいと考え、学校掃除の指導のあり方について研究を進めてきた。中国留学生との共同研究を行うに当たって、中国でも同様の取り組みができるのかどうかに関心を持った。学校掃除を研究した沖原(1978)によれば、仏道修行として掃除は重要な位置を占めているという。したがって仏教国である中国も日本と同様に、学校掃除への取り組みが行えるのではないかと考え、日本と中国の小学校における掃除教育の取り組みの実態と特徴を明らかにすることを目的に、本調査研究を実施した。

日本の大学生および日本に留学している中国からの大学生を対象に、小学校時代を想起して回答する方法で、アンケート調査を行った。その結果、次のようなことが明らかとなった。

(1) 学校掃除は、日本では特別活動の生活指導の1つとして15分程度の短時間であるが毎日行われていた。しかし中国では、毎日行われているのは半数程度で、年数回から4-5回の定期的な掃除にとどまっていた。学校行事の取り組みとしてあるいは労働教育の一環として1回の掃除時間は1時間2時間と長時間をかけて取り組まれている傾向にあることが分かった。また、中国では児童が掃除活動に参加していない学校もあり、その場合、掃除会社に委託している傾向にあった。両国とも自分たちの教室を中心として行っ

ていたが、日本ではトイレや廊下、体育館など、学校全体で使う共同の空間も児童が分担して行っていた。

(2) 掃除活動に対する教師の関わりは、中国では児童と一緒に取り組むことが少なく、サボっている子どもに対して特に注意するなどの罰を与える傾向は少なかった。しかし一方で体罰や罰金などの厳しい罰を与える傾向にあり、指導よりも罰として対応する意味合いが強いようであった。

(3) 家庭の掃除に子どもが参加している状況は日本と大きな相違はないが、生活環境を反映して、中国では台所、日本では浴室の掃除を子ども達が関わっていることに特徴があった。親の掃除に対する指導は、学校での教師の掃除活動への関わりと類似し、中国では一緒に掃除して指導する傾向は少なかった。

(4) これらの掃除への取り組みは、掃除に対する意識に影響を与えていると思われ、中国では掃除教育に余り積極的ではなく、むしろ掃除は子ども達が行う必要が無いと考える傾向にあった。

以上の調査結果から、日本で筆者が取り組んでいる学校掃除の意識的な教育指導にはハードルが高いこと、また中国の学校掃除の取り組みが日本と相違し、日本のやり方をそのまま導入することは難しいことが分かった。しかし、中国では労働教育など教科学習の一環として行っている傾向もある。日本では教科活動でない故に掃除活動には指導の目標や指導計画が必ずしも明確になっていないことから、それらを意識した

掃除指導の研究に取り組んできた。中国は学習活動の一環として掃除活動に取り組んでいる割合も高いことから、日本の経験を別のアプローチで取り組む可能性もあることが明らかとなったといえよう。

引用文献

- 大竹美登利, 藤原玲子 (2010) 「指導計画を作成して取り組む学校掃除で育成される力とその課題」『(社) 日本家政学会第62回大会発表要旨集』P.134
- 大竹美登利, 藤原玲子 (2011) 「目標を明示した掃除教育で身に付く力」『(社) 日本家政学会第63回大会発表要旨集』P.172
- 大竹美登利, 藤原玲子 (2012) 「学校の掃除教育で育成される力-家庭での取り組みに与える影響」『(社) 日本家政学会第64回大会発表要旨集』P.149
- 大竹美登利, 藤原玲子 (2014) 「教員の指導の相違が児童の掃除の取組に与える影響」『(社) 日本家政学会第66回大会発表要旨集』P.95
- 大竹美登利, 藤原玲子 (2015) 「教員の指導の相違が児童の掃除の取組に与える影響 (2)」(社) 日本家政学会第67回大会発表要旨集』P.102
- 沖原豊 (1978) 『学校掃除—その人間形成的役割—』学事出版
- 鍵山秀三郎 (2007) 『掃除道』(PHP文庫)
- 学校トイレ研究会 (2009) アンケート調査から見る学校トイレ最新事情『学校トイレ研究会研究誌』12号 pp.13-17

日本と中国の小学校における掃除の取り組みの実態と相違

Characteristics of the education methods about cleaning in the Chinese and the Japanese elementary schools

大 竹 美登利*¹・全 瑛*²

Midori OTAKE and Ei ZEN

家庭科教育学分野

Abstract

The goal of this study was to elucidate the reality and distinguishing characteristics of programs at Chinese and Japanese elementary schools that teach students about cleaning. A questionnaire survey was administered to Japanese university students and Chinese exchange students at Japanese universities asking about the cleaning programs they participated in as elementary school students. The survey gave the following findings:

1. In most cases, Japanese elementary school students participated in cleaning activities for about 15 minutes each day, while Chinese students participated in sessions lasting 1-2 hours several times a year.
2. In Japan, students cleaned restrooms, corridors, gyms, and other locations in addition to their own classrooms.
3. In Japan, teachers participated in cleaning activities alongside students, while in China they typically did not.
4. When cleaning at home, Chinese children tended to clean the kitchen, while Japanese children tended to clean the bathroom.
5. In China, education about cleaning was not viewed as necessary.

These findings indicate that because many people in China do not view education about cleaning as necessary, it would be difficult to transfer educational methods from Japan without modification. However, cleaning programs tend to be included as part of vocational education or other parts of the curriculum in China, suggesting that it may be possible to promote cleaning education through other avenues.

Keywords: education of cleaning, China, Japan, broom, duster

Department of Home Economics, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

*1 Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

*2 Graduate School of Tokyo Gakugei University, graduate in fiscal year 2014

要旨: 学校での掃除活動を児童の資質能力の育成に生かす方法を探るため、日本と中国の小学校の掃除教育の取り組みの実態と特徴を明らかにすることを目的に、本調査研究を実施した。

対象者は日本の大学生および中国からの留学生とし、小学校時代の掃除の取り組みについてアンケート調査を実施した。その結果、次のようなことが明らかとなった。

- (1) 学校掃除は、日本では毎日短時間継続的に行われ、中国では、年数回1回1～2時間行われることが多かった。
- (2) 掃除の場所は、自分たちの教室の他、日本ではトイレや廊下、体育館なども行っていることが特徴であった。
- (3) 日本の教師は児童と一緒に掃除をしながら指導しているが、中国の教師はそうしていない事が多かった。
- (4) 子どもが家庭で掃除する場所は、中国では台所、日本では浴室を行うことに違いがあった。
- (5) 中国では掃除教育が必要と考えていなかった。

以上から、日本の学校掃除の方法をそのまま中国に導入することは難しいが、中国では労働教育など教科学習の一環として取り組まれている傾向にあり、掃除指導の取り組みの可能性があると見える。

キーワード: 掃除教育, 中国, 日本, 箒, 雑巾